

⑩ 日本国特許庁 (J P)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

平3-23090

⑬ Int. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)3月11日

B 65 D 83/02
A 24 F 15/12

A 7127-3E
8114-4B

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全1頁)

⑮ 考案の名称 煙草等の包装箱

⑯ 実 願 平1-81878

⑰ 出 願 平1(1989)7月12日

⑱ 考 案 者 青 木 誠 二 東京都荒川区東日暮里2丁目34-5

⑲ 出 願 人 青 木 誠 二 東京都荒川区東日暮里2丁目34-5

⑳ 代 理 人 弁理士 竹内 三郎 外1名

㉑ 実用新案登録請求の範囲

- (1) 方形の箱体であつて、対向する二側面を非直角の平行四辺形に設定し、該二側面と交叉する側面の内、対向する二側面を開口可能な蓋面としてなる煙草等の包装箱。
- (2) 方形の箱体であつて、対向する二側面を非直角の平行四辺形に設定し、該二側面と交叉する側面の内、対向する二側面を開口可能な蓋面とし、対向蓋面間に渡り、両蓋面間に介在する側

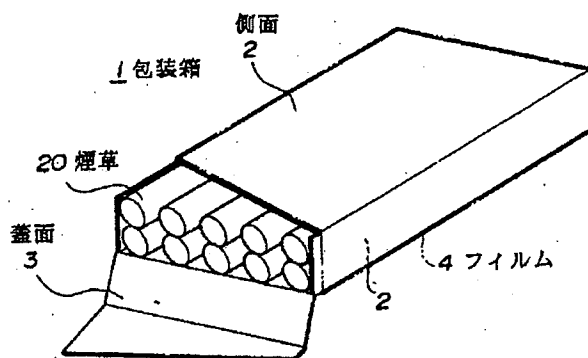
面に平行しかつ該蓋面に対して非鉛直方向に棒状体を収納してなる煙草等の包装箱。

図面の簡単な説明

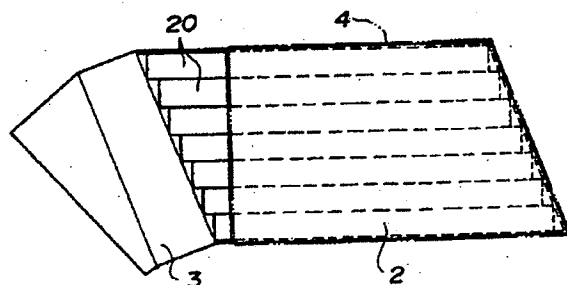
第1図は本考案に係る煙草等の包装箱の一実施例を示す斜視図、第2図は同じくその正面図、第3図は別の実施例を示す斜視図、第4図は同じくその側面図である。

1……包装箱、2、2a、2b……側面、3、3a……蓋面、20……煙草。

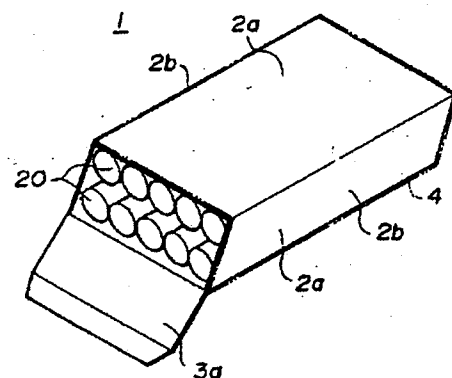
第 1 図



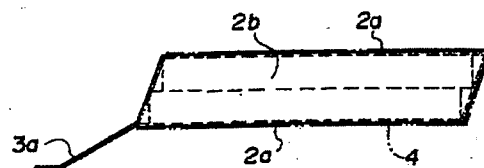
第 2 図



第 3 図



第 4 図



公開実用平成 3-23090

Pr.1

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報(U) 平3-23090

⑬ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)3月11日

B 65 D 83/02
A 24 F 15/12

A 7127-3E
8114-4B

審査請求 未請求 請求項の数 2 (全 頁)

⑮ 考案の名称 煙草等の包装箱

⑯ 実 願 平1-81878

⑰ 出 願 平1(1989)7月12日

⑱ 考 案 者	青 木	誠 二	東京都荒川区東日暮里 2丁目34-5
⑲ 出 願 人	青 木	誠 二	東京都荒川区東日暮里 2丁目34-5
⑳ 代 理 人	弁理士 竹内 三郎	外 1 名	

明 細 書

1. 考案の名称 煙草等の包装箱

2. 実用新案登録請求の範囲

(1) 方形の箱体であって、対向する二側面を非直角の平行四辺形に設定し、該二側面と交叉する側面の内、対向する二側面を開口可能な蓋面としてなる煙草等の包装箱。

(2) 方形の箱体であって、対向する二側面を非直角の平行四辺形に設定し、該二側面と交叉する側面の内、対向する二側面を開口可能な蓋面とし、対向蓋面間に渡り、両蓋面間に介在する側面に平行しかつ該蓋面に対して非鉛直方向に棒状体を収納してなる煙草等の包装箱。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案は、煙草等の被包装物を取り出し易くした包装箱に関する。



(従来 of 技術)

従来、紙巻き煙草等は直方体状 of 箱体に収納されるか、または、直方体状に揃えられた紙巻き煙草等を防湿処理を施した紙等で箱状に包装されていた。

(考案が解決しようとする課題)

しかしながら、いずれの場合であっても、包装された煙草 of 端面は面一状に揃えられているために、喫煙時一本々々を摘み取り難く、箱体乃至包装 of 上面を叩いた反動で数本の煙草を浮き上がらせ、さらに、この内 of 一本を指等で摘み取らなければならなかった。

本考案は、このような欠点を解消し、煙草等の被包装物を取り出し易くした包装箱を提供せんとするものである。

(課題を解決するための手段)

上記課題を解決するために本考案は、方形 of 箱体であって、対向する二側面を非直角 of 平行四辺形に設定し、該二側面と交叉する側面 of 内、対向する二側面を開口可能な蓋面として煙草等の包装

箱を構成したことを特徴とする。また、上記対向蓋面間に渡り、両蓋面間に介在する側面に平行し、かつ該蓋面に対して非鉛直方向に棒状体を収納して煙草等の包装箱を構成したことも特徴とする。

(作用)

煙草等に被包装物が互にその長手方向に若干ずれて収納され、各端部が一本々々摘み易く取り出し易い。

(実施例)

以下、本考案に係る煙草等の包装箱の一実施例を図面によって説明する。

1 は、硬質な紙乃至合成紙、或いは重合紙等にてなる煙草等の包装箱であって、長辺が煙草 20 と略同長の平行四辺形状をした側面 2 を煙草 2 本分の間隔を置いて対向並設し、他の各側面を連結した方形の箱体からなっており、該二側面 2, 2 の短辺間に交叉した側面を開口可能な蓋面 3, 3 として形成してある。

該包装箱 1 には、上記二側面 2, 2 の長手方向に平行し、かつ蓋面 3 とは非鉛直方向に煙草 20

特許
出願

が収納され、外側をポリエチレン等の適宜合成樹脂製フィルム 4 で被包されている。

而して、喫煙時には、予めフィルム 4 に装着されている引裂きテープ等によって該フィルムを引き裂き、次いで蓋面 3 を開口すれば、包装箱 1 内に煙草 2 0 の端部が順次長手方向にずれた状態で収納されているために、一本々々の煙草 2 0 の端部を摘んで容易に取り出すことができる。

第 3 図及び第 4 図は、本考案の別の実施例を表しており、上記実施例と異なる点を述べれば、長方形の二側面 2 a, 2 a が互に長手方向に若干ずれた状態で煙草 2 本分の間隔を置いて対向並設し、該二側面 2 a, 2 a の長手辺間に位置した側面 2 b, 2 b が平行四辺形状となり、上記二側面 2 a, 2 a の短手辺間に蓋面 3 a, 3 a が連設してある。

而して、上記二側面 2 a, 2 a に沿った二列の煙草 2 0 が蓋面 3 a, 3 a に対して非鉛直方向となって互いに長手方向に若干ずれて収納されるため、一本々々を摘み易く、容易に取り出すことが

できる。また、箱外形において傾斜部分が蓋面 3 a, 3 a の短手辺のみとなって少ないため直方体状の包装箱と大差なく、取扱い、及び包装箱自体の収納等を行うのに極めて便利である。

なお、上記各実施例では、被包装物として煙草を例示したが、この外、鉛筆、ボールペン、棒状チョコレート等任意の棒状体の包装箱に適用可能である。

さらに、上記各実施例では、硬質紙等を用いて箱体を形成したものを述べたが、適度な柔軟さを持った材質のものであってもよく、煙草を上記と同様に長手方向にずらしながら配置し、これを薄手の紙等で被包して箱状としたものであってもよい。

なお、上記各実施例における二側面 2, 2 及び 2 a, 2 a の短辺を、その長辺よりも長い辺として包装箱を形成できることは勿論である。

(考案の効果)

以上のようにして本考案によれば、煙草等を一本々々摘み易く、簡便容易に取り出すことができ、



取り出し時の煩わしさを生じることがない。

蓋面の短辺に平行する面と被収納物の長手方向とが被鉛直方向となるように形成された包装箱の場合は、包装箱の収納その他取扱いにおいて一層の便利がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る煙草等の包装箱の一実施例を示す斜視図、第2図は同じくその正面図、第3図は別の一実施例を示す斜視図、第4図は同じくその側面図である。

1…包装箱、2, 2a, 2b…側面、3, 3a…蓋面、20…煙草。

出願人

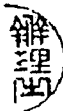
青 木 誠 二

代理人

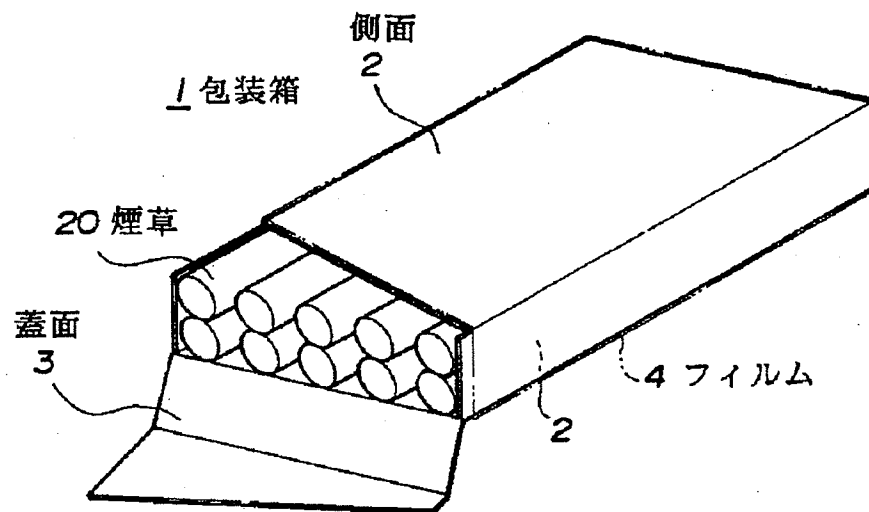
弁理士

竹 内 三 郎

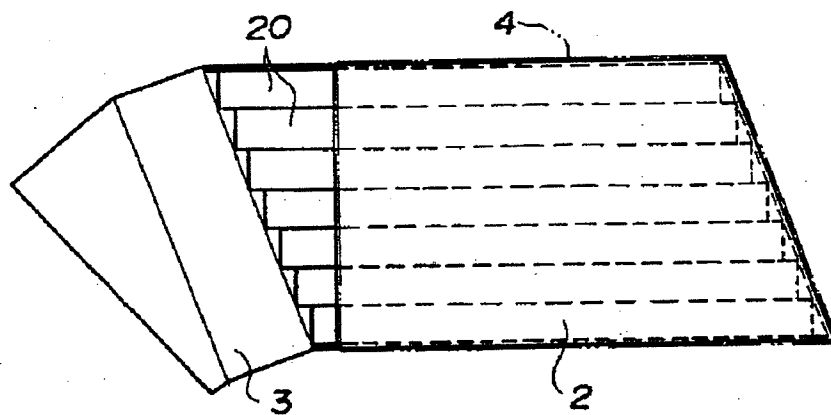
外 1 名



第 1 図



第 2 図



代理人弁理士 竹内 三郎
外1名

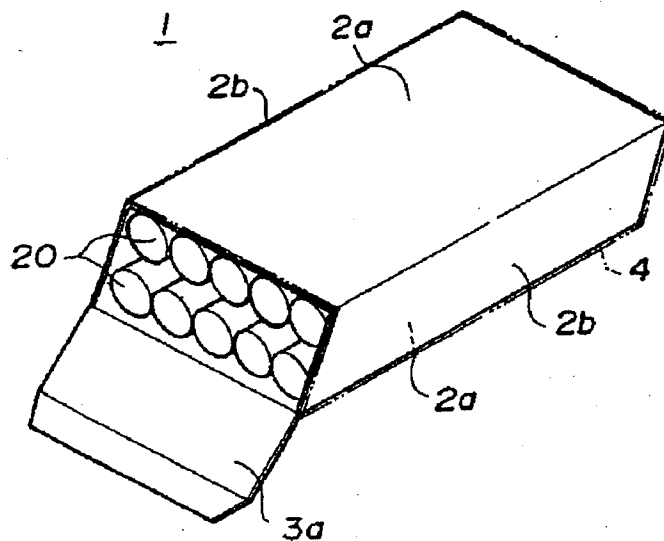


実開2

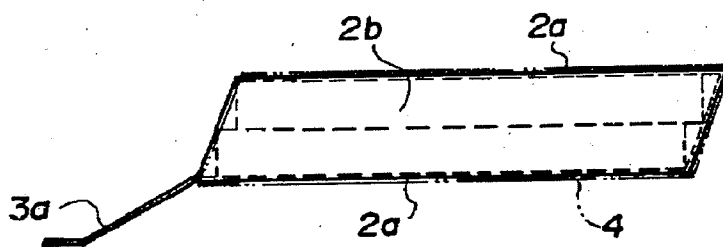
1081

23090

第 3 図



第 4 図



1082

実開3- 2309

代理人弁理士 竹内 三郎
外1名

